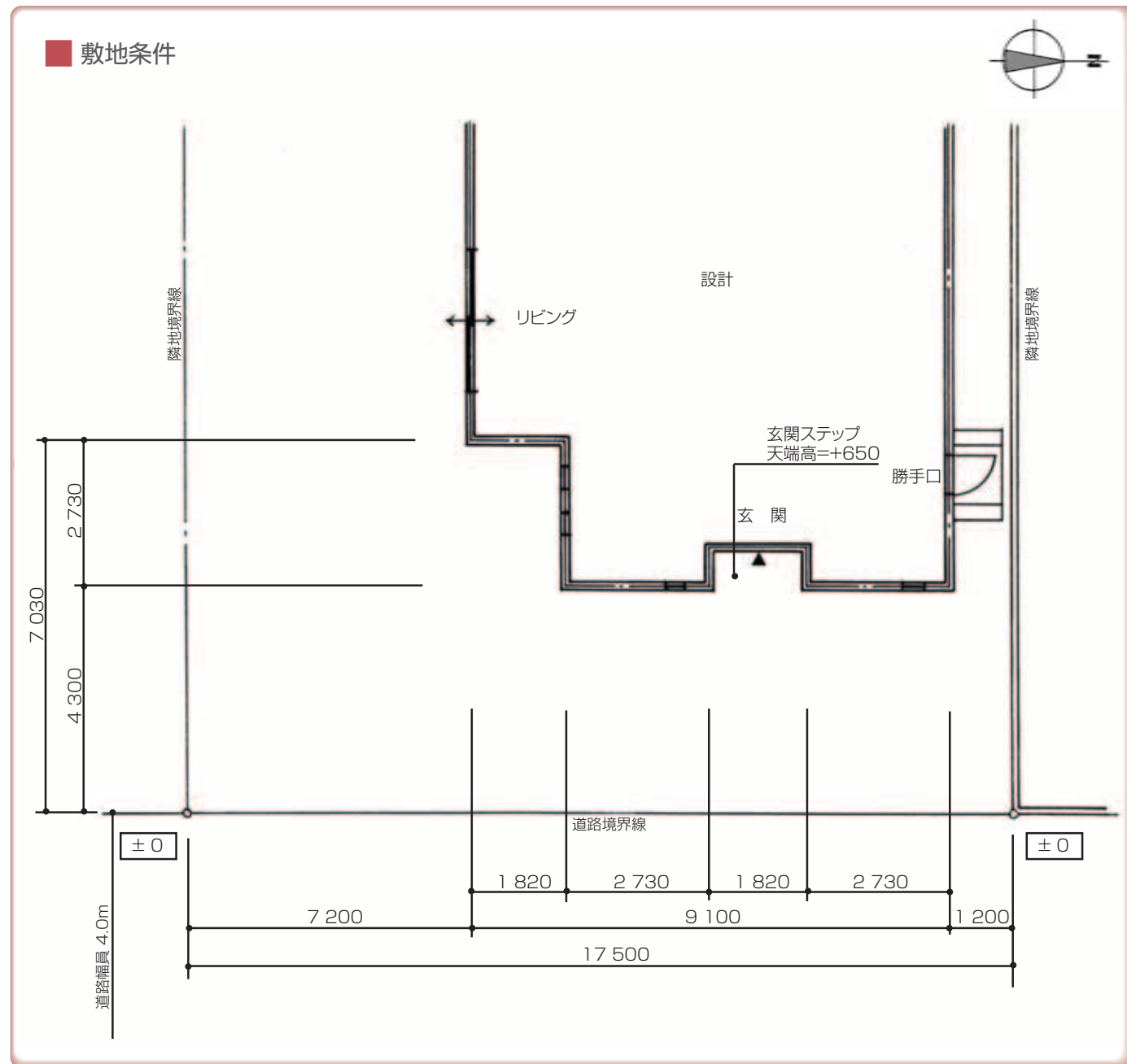


第6回目の課題について

それでは今回の新しい課題をご覧くださいませ。

敷地の条件は下記の通りで、東入りの敷地となっています。道路と敷地の高低差は300mmとなっており、北側の隣地境界には既存のブロックフェンスがあります。

下記の敷地条件や施主の要望を踏まえて、ゾーニング図・平面図・立面図（可能であればパース図）を作成し、次号の模範プランと比較出来るように準備しておいてください。



施主の要望

- スタイルはクローズスタイルで提案してください。
- 駐車場は1台分確保してください。
- 車いすを使っている家族が居るので、スロープを提案してください。
- スロープは出来れば駐車場から庭、そして玄関へアクセス出来るよう考えてください。
- サービスヤードを設け1.8m×0.9m程度の物置が置けるスペースを確保してください。
- 南側隣地境界には内積みでブロックフェンスを設けてください。

「私ならこう考える！ゾーニング手順と計画時のポイント」

今回も私がプランニングする際に、どのような事を考えているのかその一部をご紹介します。プランニングの参考にしてみてください。

車いす用スロープの検討

今回の課題でまずしっかり考えておかなければいけないのが車いす用のスロープの計画です。スロープの勾配はどの程度が良いのか、その際の長さはどのくらい必要でどうレイアウトするのか。これらをまずきちんとおさえてからゾーニングの計画に入らないといけません。

では、まず始めにスロープの勾配とその必要長さについて確認してみましょう。

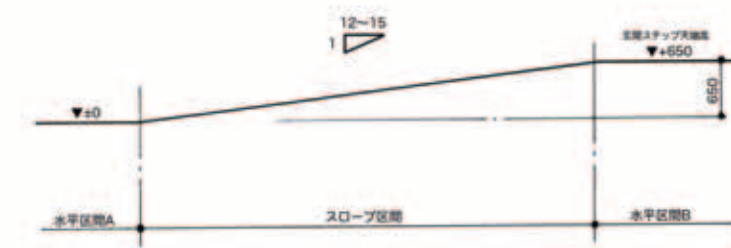


図-1 一般的なスロープの断面図



図-2 踏み場のあるスロープの断面図

まずは一般的なスロープの考え方です。(図-1 参照) 今回、駐車場の道路付近から玄関ステップの天端までスロープを計画するとした場合、その高低差は650mmあることがわかります。通常スロープの勾配は15:1~12:1くらいとするので、高低差を1とすると水平距離はその12~15倍必要と考えれば良い訳です。今回は高低差が650mmですから12:1のスロープを作るとすればスロープの長さは650×12=7,800mmつまり7.8m必要だということになります。

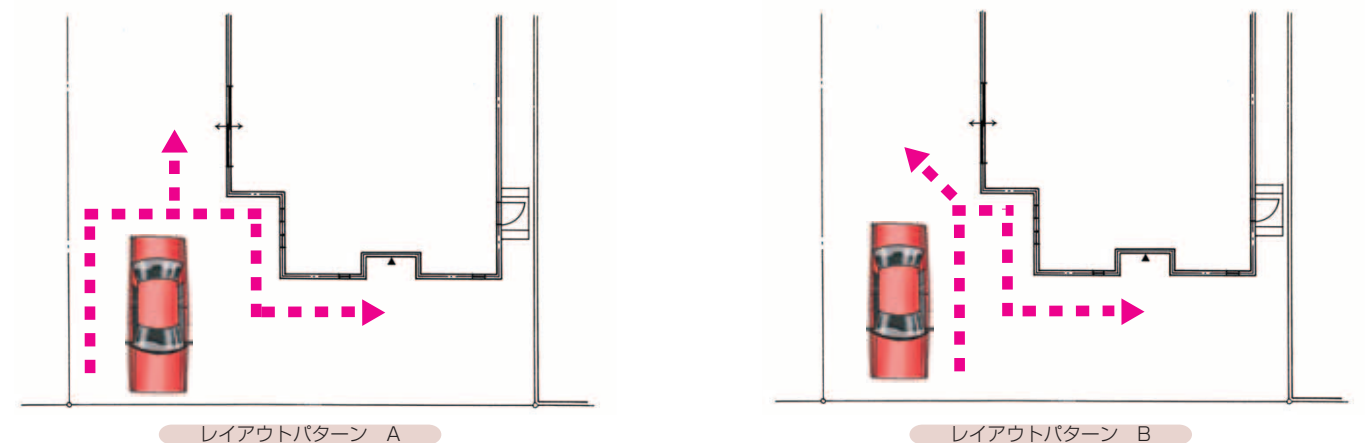
しかし、7.8mのスロープはちょっと長いので途中で休憩が出来るように平らな場所(踏み場)を設けてみましょう。(図-2参照) この途中の水平区間を設計G.L.と同じ高さに設けると左図のようになります。各区間の長さは次のようになります。

スロープ区間D=300×12=3,600mm
スロープ区間E=350×12=4,200mm
水平区間C=1,500mm以上

水平区間Cを設計G.L.と同じにすることで、駐車場や玄関から庭にアクセスする動線も確保できるようになります。また、スロープ区間の前後には水平区間が必要ですから、必ず確保するようにしてください。

スロープ動線の検討

スロープの必要長さは踏み場を除いても7,800mm必要であることがわかりました。建物から直接道路方向に配置すると道路境界を超えてしまいます。したがってスロープはL型やU型に変形させてレイアウトする必要があります。



二つの例を挙げてみましたが、いずれにしても駐車場付近でスロープの距離を確保して、途中の踏み場から庭にアクセスできる考えの方がおさまりもよさそうです。また、サービスヤードもご要望としてありましたので忘れずに考えてみてください。

模範解答は次号で掲載、解説しますので、以上のことを踏まえて素敵なプランを考えてみてください。